
弟が言った言葉。

林檎太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

弟が言った言葉。

【Nコード】

N3771U

【作者名】

林檎太郎

【あらすじ】

ある日、弟が言った言葉とは。

はぁー。こっちは駄目だってば！

僕の家は母子家庭で三人暮らしである。

家族構成は、母、僕、弟の三人家族です。

母は朝から夜まで仕事をしていて、何時も仕事が終わりに帰ってくると、母は疲れてすぐ寝ます。

そして僕は、一歳の弟をの面倒をみているのだ。

弟は最近活発になり、イタズラをするようになった。

そして、僕は弟がイタズラするたび、ちょっとした事で腹がたち怒ってしまう。

「なんと言えがいいの！このバカ！」

僕の怒鳴り声が響く、そして弟は泣く。

後悔の繰り返し、僕はこんな可愛い弟に何故怒鳴ってしまうんだろうと、自分を責める毎日が続いた。

僕はそんな日々に耐えられなくなり、自殺も考えた。

だけど、自殺しようとするたびに、母と弟の顔が僕の心に映った。

それから三年が経った。

母は再婚し、僕の生活は裕福とは言えないが、普通の生活、家族みんなでご飯食べたり、幸せな生活を送っていた。

そしてある日、弟が言った。

「お兄ちゃん、僕が小さい頃一生懸命、めんどろみてくれてありがとう。」

その瞬間、何故か僕の瞳からは涙が出た。

そして、僕の身体は粒子になり空に消えていった。

（後書き）

読んでもらいありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3771u/>

弟が言った言葉。

2011年10月9日09時48分発行